



昭和59年に行われたオコギの再現の様子 当館蔵

目次	1-2	企画展「広島麻づくり」
	3	企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」
	3	文化の日イベント「駄菓子作り広場」
	4-5	特別展「広島市民と戦争」
	5	新刊紹介
	6	活動報告
	7	新着収蔵資料
	7	平成27年度を振り返って
	8	平成28年度 展示紹介

企画展

「広島麻づくり」

会期：2016年1月23日(土)～2016年4月10日(日)

みなさんの身の回りにはいろいろな麻製品があると思います。麻の紐はちょっとしたものを括ったり、ラッピング用に使ったり、編んでコースターやバッグにしたりします。布巾や蚊帳、夏の衣類用の布地として麻を好まれる方も多いでしょう。実はこれらに使われている麻は1種類ではありません。現在「麻」という言葉は強く長い繊維を茎からとることができる植物およびその繊維の総称で、20種類ほどが知られています。紐を作るのには「マニラ麻」「黄麻(ジュート)」「サイザル麻」、衣類などには「亜麻(リネン)」「苧麻(ラミー)」などがよく使われていますが、これらは植物学的には別の種類です。

麻の繊維は古くから日本中で使われているのですが、実はかつて麻として広く栽培されていたのは「大麻」という種類です。大麻は現在大麻取締法により栽培が禁止されていますが、戦前は米と並ぶ主要農産物として盛んに栽培されていました。そして、広島は日本有数の大麻繊維の生産地として知られていたのです。(以降、麻は大麻のことを指します。)

麻繊維は茎の表皮の中に含まれており、まず栽培農家は収穫した麻の皮を剥がして乾燥させました。これをアラソといいます。次に、アラソから繊維を取り出し、最後に糸を作るのですが、その作業の中心地となっていたのが現在の広島市安佐南区古市です。企画展「広島の麻づくり」では、当館に収蔵されている麻関係の資料を展示し、古市での作業の様子を中心にご紹介しました。



河原に干されたコギソ(昭和59年の再現時の様子) 当館蔵



昭和59年に行われたオウミの再現の様子 当館蔵

アラソから繊維を取り出す方法はいろいろ知られていますが、広島では「オコギ（苧扱ぎ）」と呼ばれる作業が行われました。煮扱ぎ屋と呼ばれる専門業者がまず木灰汁でアラソを煮て、その後川に運びます。それを受け取ったオコギさんと呼ばれた女性が川の中に作られた作業場でオコギを行いました。オコギさんは専用の箸を使い、アラソから不要なものをこそぎ落とし、麻の繊維を取り出していきます。川の流れの中で行うのは、繊維がもつれにくく、不要なカスがすぐに下流側に流れていくからです。こうして取り出された繊維はコギソと呼ばれました。コギソはこのまま出荷されたほか、糸屋に運ばれました。

糸屋に運ばれたコギソはウミコと呼ばれる女性によって細かく裂かれ、各々の繊維が手作業で繋がれて1本の長い繊維になります。この作業をオウミ（苧績み）といい、できたものをウミソ（績み苧）といいます。この後ウミソに撚りがかけられて、糸に仕上げられました。古市で生産されていた麻糸のうち、上質なものは釣り糸や漁網に加工され、西日本一円に販売されています。

麻づくりは昭和30年代には姿を消しました。その風景を知る人は少なくなってきており、古市では町を支えた産業について後世に伝える活動が行われています。今回、展示や動画上映などを通してその姿を少しでも再現したのは、こうした活動をサポートする上でも有意義なことだったと思います。これからも、こうした失われた産業に関する展示を取り上げていきたいと思っています。

(本田 美和子)



麻糸 当館蔵

企画展

「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

会期：2015年9月5日(土)～2015年12月6日(日)

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」は、平成13年度から毎年恒例の秋の展示として開催しています。この展示では、児童文学作家・新美南吉の代表作である『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、物語の中に描かれている昔の人々の暮らしぶりを紹介しており、展示期間中は学習の一環として多くの小学生が来館されました。

童話「ごんぎつね」は小学校4年生の国語教材としても取り入れられており、多くの人々から愛されている作品です。企画展では、『ごんぎつね』の中に登場する「はりきり網」や「びく」「火縄銃」などを実際に見ることができ、来館された小学生は熱心にメモを取り、学ばれているようでした。また、毎週日曜日に行われた展示ガイドでは、幅広い世代の方々に来ていただき、昔の道具を見て懐かしむ方や親子で学ばれている方もいらっしゃいました。

そのほか、企画展の関連事業として、今年度は「『ごんぎつね』に親しもう」(ごんぎつねのやじろべえ作りとおはぎ作り)を行いました。参加者は、親子で協力しながら取り組まれていました。

『ごんぎつね』のお話からは「ごん」の目をとおして、昔の人々の暮らしや生きる知恵を感じ取ることができます。先人たちがかつてどのように暮らし、生きていたのかを知ること、普段の生活を見つめなおしたり、新たな発見に出会う機会となれば幸いです。今後も、ご来館いただいた方の良き学習の場、そして時には昔を懐かしむ場として活用していただけたらと思います。

(日原 絵理)



展示風景

イベント「駄菓子作り広場」

実施日：2015年11月3日(火・祝)

広島市郷土資料館では、11月3日「文化の日」の無料開放日にあわせて、イベント「駄菓子作り広場」を開催しています。

このイベントは、昔なつかしい駄菓子作りや夜店の遊び、縁日の雰囲気や賑わいを誰でも気軽に体験していただけるもので、周辺地域をはじめ、広く市民の皆様が親しまれています。一銭洋食や、あったかわらびもち、綿菓子、ラムネ菓子、型抜き、スーパーボールすくいなど、大人も子どもも楽しめるブースが盛りだくさん。今年も晴天に恵まれ、昨年を上回る7,007人という大勢のお客さまにご来館いただきました。

どこのブースにも長蛇の行列ができ、少なからずお待ちいただいたことや、材料・賞品の在庫がなくなり、早めに終了してしまったコーナーがあったことは恐縮でした。しかしながら、当日は運営に携わっていただいた多くのボランティアの方々のご協力により、皆様に笑顔でイベントに参加していただくことができました。職員・ボランティア、そして参加者の方が一体となって楽しむことができるこのイベントを、今後も継続していきたいと思っております。

ご来館いただいた皆様、そして、ご協力いただいたボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

(正連山 恵)



当日の様子

特別展

「広島市民と戦争」

会期：2015年10月17日（土）～2016年1月11日（月・祝）

戦後70周年・被爆70周年にあたった昨年、全国で戦争や原爆に関するさまざまな事業が行われました。本展示もそのひとつとして開催されたものですが、きっかけとなったのは広島市内在住の方から当館へ日中戦争で戦死した1人の人物（展示では“H氏”としました）に関する一連の資料が寄贈されたことです。寄贈された資料はH氏が軍隊で教育を受けた際の教科書や、戦場で使用した軍服・装備品、出征時やその後に銃後の市民から贈られた品々、葬儀の際の弔電・弔詞等で、寄贈資料以外に家族の手元に残された資料もあり、被爆地広島でよくこれだけまとまった形で残されたものと驚かされました。そして、これらの資料からH氏の経歴をたどり、それを当時の学校や軍隊の制度、戦争経過の中に位置づけて展示することによって、個人の生涯と歴史をリンクさせ、戦争と市民の関わりのひとこまを見ていくことができるのではないかと考えました。

展示の準備としてH氏の経歴を復元することから始めました。H氏は明治42年（1909）2月に生まれ、のちに原爆ドームとなる広島県物産陳列館が建てられた大正4年（1915）の春、大手町尋常小学校に入学しました。大正10年（1921）3月に同校を卒業したあと、いったん広島高等師範学校附属中学校に入学しますが、その後、理由は不明ながら京都の同志社中学校に入りなおしています。家族の話によりH氏が同志社中学校でラグビーをやっていたことはわかっていましたが、今回、当時のスポーツ年鑑等にあたることで、H氏が最上級生だった昭和3年（1928）度の全国中等学校蹴球大会（現在の全国高等学校ラグビーフットボール大会）で同志社中学校は優勝し、H氏は決勝戦のメンバーとして出場していることが判明しました。卒業後広島に戻ったH氏は仲間たちと広島ラグビー倶楽部を結成し、広島で初めて行われたラグビーの試合にも出場するなど、黎明期の広島ラグビー界の中心人物の一人として活躍しています。このことは、ちょうど昨年のラグビーワールドカップでの日本代表チームの活躍もあって注目を集めました。

H氏の経歴でもっともわからなかったのが軍歴です。家族の話などからH氏が少尉として日中戦争に従軍したことはわかっていましたが、それ以前のことは不明でした。戦前の日本における成年男子と軍隊（陸軍）とのかわりとしては、①兵役により軍隊に入り、兵として軍務に就く（兵役終了後も下士官として軍隊に残るという派生コースもあった）②陸軍士官学校を出て士官となり、職業軍人として軍の中核を担う の2コースが代表的なものです。ところが、H氏は少尉となっていますが陸軍士官学校には行っていないということで、どちらのコースにもあてはまりません。そこで昭和初期の軍隊制度をもう少し見ていくと、戦時に大量に必要となる予備役将校（平時は軍務を離れて生活しているが、戦時に士官として召集することにより、人材の確保と人件費の節約を図ったもの）を養成・確保するために設けられた幹部候補生という制度があったことがわかりました。幹部候補生となるには配属将校のいる中等教育以上の学校を出ている者が志願して軍隊に入ることと、軍隊生活に必要な経費を自弁することが条件でした。その代わりに、通常の兵役では2年間だった軍務期間が半分程度に短縮されるとともに、試験に合格すれば少尉に任じられる資格が得られるということで、『陸軍予備役将校同相当官服役停年名簿』（昭和9年4月1日調）で確認できたH氏の予備役編入と少尉任官の年月日等の軍歴にもぴったりあてはまりました。あまり知名度が高いとはいえ

被爆70周年・開館30周年記念特別展
広島市民と戦争
彼はどのように戦場へ送られ、その死は迎えられたか
平成27年10月17日（土）～平成28年1月11日（月・祝）
広島市郷土資料館 2階企画展示室

【開館時間】 9:00～17:00（入館16:30迄）
【休館日】 毎月第1日（10/23、11/13等）
12月～1月の年末年始（12/24～1/3）
1/20（火）25（月）26（火）
休館期間：12/28～1/3

観覧料 大人 100円（90円）
高校生、大学生、50歳～30代、
中学生以下無料
※10歳未満は50円（40円）
※10歳未満は50円（40円）
※10歳未満は50円（40円）
※10歳未満は50円（40円）

主催：広島県歴史文化財団、広島県立文庫館
協力：中国新聞社、同志社中学校、広島県立文庫館
広島市立文庫館、広島市立歴史文化センター、広島文化学園
広島県立歴史文化財団、広島県立文庫館
広島市立文庫館、広島市立歴史文化センター、広島文化学園
広島県立歴史文化財団、広島県立文庫館
広島市立文庫館、広島市立歴史文化センター、広島文化学園

1/30-0015 広島県歴史文化財団 〒730-0020
広島市東区本町1-1-1 電話 082(255)6771 FAX 082(255)6772
http://www.city.hiroshima.jp/pondo

特別展のポスター



特別展「広島市民と戦争」展示会場風景

ない幹部候補生ですが、日中戦争時の将校中に占める割合は高く、昭和14年(1939)の陸軍兵科将校の中・少尉の87%が幹部候補生出身と推定されています(熊谷光久『日本軍の人的制度と問題点の研究』)。

昭和12年(1937)7月7日の盧溝橋事件をきっかけとして日中戦争が始まるとH氏は軍隊に呼び戻され、広島歩兵第11連隊で小隊長として戦うなか、中国山東省における戦闘で負傷し、昭和13年(1938)3月18日、29歳で亡くなりました。H氏の遺品は軍隊にいた友人らの手によって家族のもとへ送り届けられ、その後は家族によって大切に守り伝えられてきました。

今回の展示会タイトル中の「広島市民」はH氏を指すことはもちろんですが、H氏の遺品を守り伝えた家族や友人、H氏の出征を見送り、戦場に手紙や慰問袋を送り、遺骨を迎えた多くの広島市民のこともでもあります。展示会では、市民のそれぞれの立場によってさまざまな形での戦争との関わりがあったことを紹介したいと思います。

(村上 宣昭)

新刊紹介

特別展図録「広島市民と戦争」

定価：600円(税込)

送料：300円(2冊の場合も300円)

発売：2015/11/28

概要：一広島市民の出征から戦死・葬儀に至る一連の資料を通して市民と戦争の関わりを紹介します。

目次

はじめに

目次・凡例

- 1 生い立ち
- 2 H氏と軍隊
- 3 出征
- 4 戦地と広島
- 5 戦死
- 6 遺骨の帰還とその後

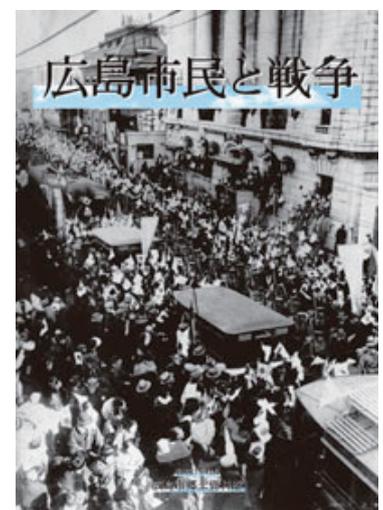
関連年表

資料一覧

主な参考文献

謝辞

A4判 46ページ



活動報告

2015年10月～2016年3月

教室事業

- 10月 3日(土) お手玉作り
- 10月17日(土) 宇品めぐり(フィールドワーク)
- 11月21日(土) 平田屋川めぐり(フィールドワーク)
- 12月 4日(金) 水引き飾り作り(大人向け教室)
- 12月12日(土) クリスマスカード作り(親子教室)
- 12月19日(土) 羽子板作り(親子教室)
- 12月26日(土) もちつき体験
- 1月16日(土) 初心者のためのけん玉教室
- 2月 6日(土) バウムクーヘン作り
- 2月 7日(日) バウムクーヘン作り
- 2月13日(土) 糸紡ぎと麻のコースター作り(親子教室)
- 2月21日(日) カキ船料理体験(大人向け教室)
- 2月27日(土) ひな人形作り
- 3月 5日(土) わらざうり作り
- 3月19日(土) 桜もち作り



ボランティアフェスティバル



平和インターンシップでフィールドワーク

「宇品地区の歴史」

その他の事業・館外活動

- 10月 2日(金) 広島を知る講座(中央公民館)で講演「広島城下の小路」
- 10月 4日(日) 秋のグリーンフェア(植物公園)で工作指導「縄文くみひも飾り作り」
- 10月22日(木) 「(仮称)古代山陽道安佐南区散策マップ作成事業」に係る研修会(安公民館)で講演「古代山陽道(安佐南区)について」
- 10月24日(土) ボランティアフェスティバル(ハノーバー庭園)で「バウムクーヘン作り」
- 10月24日(土) わくわく図書館講座(東区図書館)で講演「西国街道の歴史」
- 10月30日(金) 広島を知る講座(中央公民館)で講演「戦前の町の様子」
- 10月30日(金) 牛田歴史学習会(牛田公民館)で講演「明治から昭和にかけての水源地 牛田の歴史」
- 11月 6日(金) 牛田歴史学習会(牛田公民館)でフィールドワーク「牛田水源地探訪」
- 11月13日(金) 広島を知る講座(中央公民館)で講演「日清戦争と宇品港」
- 11月14日(土) 広島市観光ボランティアガイド養成講座(平和記念公園レストハウス)で講演「広島市の歴史」
- 12月 2日(水) 宇品まちかど調査隊(宇品小学校)で講演「郷土資料館建物今昔について」
- 12月 5日(土) 広島市立大学平和インターンシップでフィールドワーク「宇品地区の歴史」
- 12月10日(金) 三篠長寿大学(三篠公民館)で講演「中世の覇権争い～大内 vs 尼子 vs 毛利～」
- 12月16日(水) 県立広島大学・宇品公民館連携講座(宇品公民館)で講演「海に開かれた都市・広島-城下町建設以前の広島湾をめぐって-」
- 1月18日(月) 広島市立大学で講義「博物館資料論」
- 2月 6日(土) 生涯学習支援講座(まちづくり市民交流プラザ)で講演「築城前の太田川河口部」
- 2月20日(土) うじな通特別講演会(宇品公民館)で講演「宇品港と戦争～日清戦争から第二次世界大戦まで～」
- 3月12日(土) 生涯学習支援講座(まちづくり市民交流プラザ)で講演「毛利期の広島城下における交通路」

新着収蔵資料

2015年10月から2015年2月までにご寄贈いただいた資料です。みなさまありがとうございました。

資料番号	資料名	数量	寄贈者	受入年月日	備考
2015-1164	看板	1	齊藤 郁子	2016.1.23	「小児 芸州広島元安橋、大聖丸、薬王 世並屋一良左衛門製」
2015-1165	天秤秤	1			
2015-1166	棹秤	1			
2015-1167	ランプ	1			ガラス製
2015-1168	大日本物産図絵 東京錦絵製造之図	1			
2015-1169	大日本物産図絵 武蔵国浅草海苔製図	1			
2015-1170	大日本物産図絵 安芸国厳島楊枝ヲ鬻図	1			
2015-1171	大日本物産図絵 安芸国広島牡蠣畜養之図	1			



2015-1164 看板



2015-1165 天秤秤



2015-1167 ランプ

平成27年度を振り返って

当館は、近隣公園に隣接しており、春のおとずれを感じるこの季節になると、放課後公園で遊ぶ子供たちの歓声が日増しに大きくなります。このころには、新しい年度に向けて準備に忙しい日々を迎えています。

今年度を振り返ってみると、開館後30年の節目となった昨年は、企画展「郷土資料館の歩み」を開催し地域とともに歩んできた当館の軌跡をたどりました。また、被爆70年、戦後70年の年に際し特別展「広島市民と戦争」を開催し、戦争の悲惨さ平和の尊さを改めて考える機会となりました。

そのほか、恒例となった企画展に加えて、かつて広島で盛んにおこなわれていた麻づくりを紹介する企画展「広島麻づくり」を開催したくさんの方に来館いただきました。今年度も多くの皆様に支えていただいた一年であったと思います。皆様のご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

これからも地域に愛される博物館として、魅力ある事業を展開していきたく思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

(館長 中田 幸治)

平成 28 年度 展 示 紹 介

企画展 ひろしま再発見 3

2016年4月23日(土)～7月3日(日)

東国武士の西遷とその定着に特徴づけられる中世から、現在の広島市街地の姿が形成された江戸時代までの出土品や発掘調査の成果に焦点をあて、都市としての現在の街の成り立ちを見つめます。

企画展 夏休みおばけの博物館

2016年7月21日(木)～8月28日(日)

おばけの多様な世界や、おばけを生み出した昔の人々の生活を紹介します。

企画展 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

2016年9月3日(土)～12月4日(日)

新美南吉の童話「ごんぎつね」のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。

重要文化財「安芸福田木の宗山出土青銅器」展示

2016年10月22日(土)～11月20日(日)

日ごろは公開していない重要文化財「安芸福田木の宗山出土青銅器」(銅鐸・銅剣・銅戈)を文化の日(11月3日)の前後1か月間にわたり、解説を加えつつ公開します。

特別展 『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治前期の広島

2016年12月10日(土)～2017年2月19日(日)

明治初頭の商店の様子が絵入りで紹介されている『広島諸商仕入買物案内記』を通して、近世城下町から近代都市へと変貌しつつあった広島の様子を紹介します。

企画展 広島のスポート

2017年2月25日(土)～4月16日(日)

広島は戦前からスポーツ王国でした。明治から現代に至るまで、広島の人々とスポーツの関わりを追います。

ひろしま郷土資料館だより No.91 2016年3月31日発行
編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20
TEL:(082)253-6771 FAX:(082)253-6772
URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

